

風水害に備えて

▶ 雨の降り方と災害発生の目安

雨の降り方から被害の予想ができます。雨の降り方に注意し、警報や避難情報が出る前でも、危険と判断すれば、避難などの準備をしたり自主的に避難することも大切です。〔雨量は1時間雨量(ミリ)〕

10~20ミリ やや強い雨	20~30ミリ 強い雨	30~50ミリ 激しい雨	50~80ミリ 非常に激しい雨	80ミリ~ 猛烈な雨
ザーザーと降る この程度の雨でも長く続くとときは注意が必要。	どしゃ降り 側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。	バケツをひっくり返したように降る 山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり、危険箇所では避難の準備が必要。	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く) マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる 雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

▶ 風の強さと吹き方 風速の単位m/sは、1秒間に進む距離 (m)



▶ 気象情報の種類と発表基準

注意報	災害が起こるおそれのあるときに注意を呼びかけて行う予報
警報	重大な災害が起こるおそれのあるときに警戒を呼びかけて行う予報
特別警報	警報発表基準をはるかに超える大雨等が予想され、重大な災害の起こるおそれが著しく高まっている場合

特別警報が発表されたら「ただちに、命を守るための行動をとる」

主な警報の発表基準

警報	大雨(浸水害)	大雨によって、浸水害が起こるおそれがあると予想される場合 ● 表面雨量指数基準 15
	大雨(土砂災害)	大雨によって、土砂災害等が起こるおそれがあると予想される場合 ● 土壌雨量指数基準 184
	洪水	洪水によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合 ● 流域雨量指数基準/丹生川流域=17.8、不動谷川流域=14.5 北又川流域=7.3
特別警報	暴風	暴風によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合 ● 平均風速 20m/s以上
	大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
	暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くと予想される場合

詳細な基準は気象庁ホームページを参照してください。 <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kijun/wakayama.html>
※1 (表面雨量指数、流域雨量指数)の組み合わせによる基準値を表しています。

土砂災害について

▶ 土砂災害の種類

土砂災害には、土石流・地すべり・がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)の3種類があります。

土石流	地すべり	がけ崩れ
<p>谷や斜面に溜まった土・石・砂等が、大雨による水とともに一気に流れ出す現象。スピードが速く、破壊力も大きいので、広範囲に大きな被害が出る。</p>	<p>比較的緩やかな斜面で地中の粘土層等がゆっくりと動き出す現象。一度に広範囲で発生するので、住宅や道路等に大きな被害が出る。</p>	<p>地中にしみ込んだ雨水で柔らかくなった土砂が斜面から突然崩れ落ちる現象。一瞬のうちに崩れ落ちるので、逃げ遅れ等で被害が大きくなる。</p>

▶ 土砂災害の前兆現象

突然やってくる土砂災害。しかし、よく観察してみれば土砂災害にもいくつかの前兆があります。それらの前兆を理解し、いざという時に備えましょう。

土石流	地すべり	がけ崩れ
<p> 川の水が濁り、流木が混じり始める。</p>	<p> 地下水や湧水の急激な変化で、井戸の水が濁る。</p>	<p> がけから小石がパラパラ落ちてくる。</p>
<p> 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。</p>	<p> 地割れができる。(農地や道路・家屋の周辺等に、亀裂が生じる)</p>	<p> 斜面に亀裂やはらみが見られる。</p>
<p> 山鳴りがする。腐った土の臭いがする。</p>	<p> 斜面から水が噴き出す。(家や樹木、電柱が傾いたり、倒れたりする)</p>	<p> がけから水が湧き出ている。</p>